

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 家計調査(2007年8月)

発表日2007年9月28日(金)

～天候の回復によってひとまず持ち直し～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
TEL : 03-5221-4525

(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)		実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前年差
06	1-3月期	▲ 1.7	▲ 1.3	▲ 3.1	▲ 0.9	74.5	0.4
	4-6月期	▲ 1.5	0.2	▲ 4.5	▲ 1.3	74.7	0.9
	7-9月期	▲ 3.8	▲ 2.0	2.3	4.7	70.0	▲ 5.1
	10-12月期	▲ 1.7	1.6	2.3	▲ 0.1	72.0	▲ 2.8
07	1-3月期	0.6	1.0	2.5	▲ 0.7	72.2	▲ 2.7
	4-6月期	0.5	▲ 0.1	2.9	▲ 0.9	72.7	▲ 1.3
06	8月	▲ 4.3	▲ 1.0	3.3	▲ 4.1	70.6	▲ 5.4
	9月	▲ 5.9	▲ 1.0	0.1	▲ 1.7	70.8	▲ 5.2
	10月	▲ 2.4	2.7	▲ 0.3	0.5	73.1	▲ 1.7
	11月	▲ 0.7	0.2	1.5	1.3	73.0	▲ 2.1
	12月	▲ 1.9	▲ 0.6	6.9	3.4	70.0	▲ 4.5
07	1月	0.6	1.4	1.0	▲ 4.1	74.8	0.0
	2月	1.3	0.2	2.7	1.8	70.5	▲ 4.1
	3月	0.1	▲ 0.8	4.0	▲ 1.0	71.3	▲ 3.9
	4月	1.1	0.6	▲ 0.4	▲ 2.3	73.2	0.7
	5月	0.4	▲ 0.2	1.6	▲ 0.1	74.6	▲ 0.7
	6月	0.1	▲ 0.2	7.4	4.6	70.4	▲ 4.0
	7月	▲ 0.1	▲ 1.2	▲ 4.5	▲ 2.4	72.4	3.1
	8月	1.6	0.4	▲ 2.8	▲ 2.2	75.1	5.0

(出所) 総務省「家計調査報告」

○実質消費支出は前年比+1.6%と2ヶ月ぶりに前年を上回る

8月の家計調査実質消費支出(二人以上世帯)は前年比+1.6%(7月同▲0.1%)となり、2ヶ月ぶりに前年を上回った。また、季節調整済みの前月比では+0.4%と4ヶ月ぶりの増加となった。7月に大きく落ち込んだことを勘案すると8月の反発はやや物足りなさも感じられるが、ひとまず持ち直しとなった。8月の消費がプラスに転じた要因としては天候の回復が大きいと考える。7月は天候不順で外出機会が奪われるなどの影響があったが8月は全国的に好天に恵まれた。さらに気温が平年よりも高かったことから夏物商材の動きが好調だったことも個人消費を下支えしたと考える。もっとも、ガソリン価格の上昇や住民税の負担増、株安などは消費の抑制要因となったとみられ回復に力強さはない。4-6月期対比でも7-8月平均は前期比▲1.2%と減少しており、夏場の消費は回復感に欠ける状況となっている。

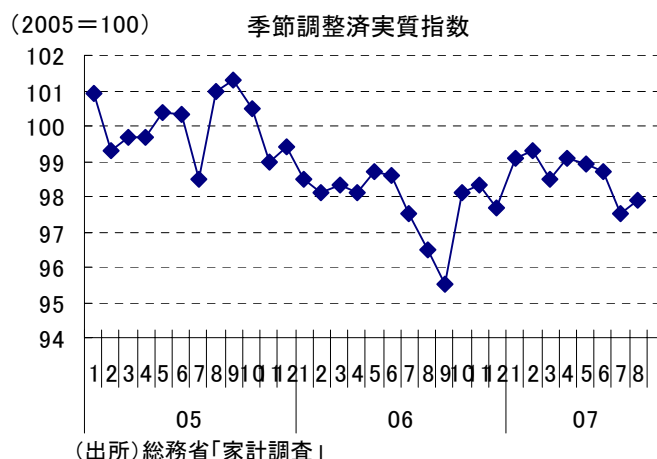
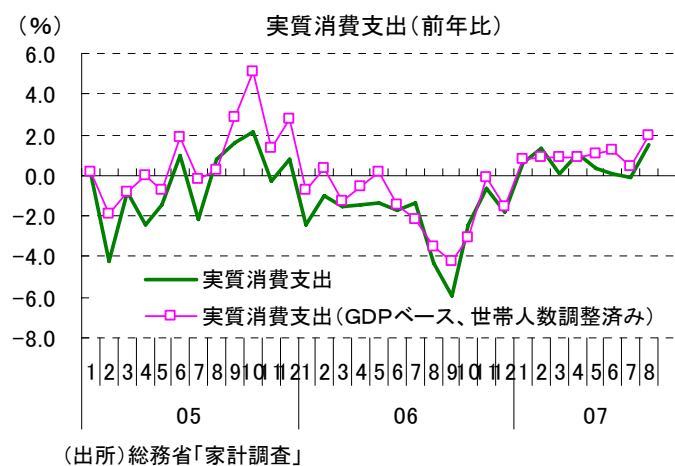
○8月は猛暑だったため夏物関連消費が好調

8月の実質消費支出を費目別にみると、増加に寄与したのは教養娯楽(前年比寄与度:+1.21%)、食料(同:+0.21%)、家具・家事用品(同:+0.14%)などである。教養娯楽はテレビなどの教養娯楽耐久財が大幅に増加したことに加えて教養娯楽サービスも増加に寄与した。記録的な猛暑だったことは夏物消費を

活発化させた一方で外出を控えさせるとの見方もあったが、家計調査から判断すればサービス消費も好調だったと判断できる。また、食料は高温になったことから飲料や酒類の消費が増加した。家具・家事用品の増加は、やはり猛暑だったことでエアコン購入が増えたことが影響している。一方、マイナスに寄与したのは光熱・水道（前年比寄与度：▲0.28%）、交通・通信（同：▲0.23%）などである。光熱・水道は電気代などが減少し、交通・通信は自動車等購入が前年比▲10.5%と全体を押し下げた。

○8月は持ち直したものの7-9月期のGDP個人消費は低調なものとなる可能性も

8月の消費は、GDPベース（GDP個人消費の需要側推計値の作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したものを当社で試算）で計算した場合においても、前年比+2.0%と前月（同+0.4%）からプラス幅が拡大した。また、GDPベースの家計調査を当社で季節調整をかけても前月対比では+0.5%、7-8月平均は4-6月期対比で▲1.1%とヘッドラインとそれほど変わらず、需要側統計からは夏場の消費はあまり芳しくない。もっとも、本日公表された供給側の財消費を表す消費財出荷や商業販売統計では8月は良好であることに加え、GDPでは別途推計される自動車の消費などは一部で持ち直しの動きがみられており、GDPでは家計調査ほど悪い数字になるとは考えにくい。7-9月期の個人消費は低調なものとなる可能性をみておきたい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。